

夏が近づくと毎年のように猛暑や厳しい暑さなどの表現が言われるようになってきました。危険な暑さは今後もさらにすすんでいくようです。そうなると新築住宅のニーズや関心ごとにも高断熱の性能が1番上にくるようになってきます。弊社もご多分に漏れず高断熱化を施した住宅をつくるようになりましたが、設計をする上で難しく思うのが断熱性能をまとった間取りや空間をどう居心地の良さに結びつけるかが毎回の悩みどころですし、それをお施主様にご理解いただくのにも心血を注ぎます。

断熱を効率よく外周部に施すには1階と2階の面積を合わせた四角い箱のような総2階の家を造ってしまうのが一番合理的です。しかし高断熱化に集中しすぎてシェルターのような単調な空間ばかりつくってしまっただけは住居としての本質的な快適性を得ることができないので設計するわれわれのスキルには性能と空間のしつらえをバランスよく調整する能力が必要になってきます。そこで今回、断熱住宅と居心地の関係性を説明するにあたり、「狭くて居心地のいい家」という一見矛盾する表現を用いたいと思います。

「広い」はポジティブなイメージがあります。広くて快適、広くて豪華、広くて羨ましいなど、広いことはいい表現で使われますが、反対に「狭い」はあまりいい表現として使われることはありません。「狭くて心地のいい家」に込められた快適性とはどういうことなのか？それは様々な工夫の上になり立ちます。そもそもなぜ狭さを強調させているのかと言うと、前述の通り高断熱の性能をもった住宅でエネルギーロスを抑えて効率よく冷暖房をするには広すぎる家造って意味がないからです。できれば全館空調(エアコン)、2台で全室を空調できる)ができるくらいの性能値をもった断熱住宅での影響下でのような間取りや空間が適しているかを考えたいと思います。

まずは全室にまんべんなく空調された空気が循環する工夫が必要になります。そのために気密を確保し強制的に機械換気することで家中の空気を循環させる必要があります。そして家中の温度を一定にするために窓や外壁面の断熱材の断熱性能を上げる必要があります。つまり従来の家づくりよりイニシャルコスト(導入資金)が上がってしまいます。空調する家の容積を小さくするという物理的な要因と、イニシャルコストが上がるといって経済的な要因が「狭さ」という事につながってきます。しかし快適な温度環境と引き換えに「狭さ」を強要するとうる発想ではなく、そのような空気(温熱)環境下だからこそ快適に暮らせる空間を造ることができるということをお願いしたいのです。

住宅の高断熱化はこれまでの家づくり、特に間取りの概念を交換させるパラダイムシフトを生み出しました。それは部屋ごとに空調する必要が無くなった

狭くて居心地のいい家。

zuiun(便利) vol.53

ことにあります。大きな吹き抜けは大歓迎ですし、極力内部空間を間仕切ることなくつなげるの方が空調効率が良くなります。玄関ドアを開けた瞬間から暖かかったり涼しかったりするイメージです。それでいて大幅に光熱費を削減でき、投資したコストを充分に回収できるほどの断熱効果があります。他にも内部空間をつなげて広くする利点として、窓から入る自然光がコントロールしやすくなる事です。日当たりのいい場所と空間をつなげる事で暗くながちだった場所も、逆に陰影としてスポットが当たり空間の魅力が増します。

「狭い」という言葉はネガティブなものです。ただ物理的に狭いと狭く感じるというのは違うと思います。充分に広い家であったとしても狭く暮らしている家や間取りはたくさんありますし、田舎の方では一昔前まで日当たりの悪い場所に通し間の座敷を設けることが普通にありましたし、家族は日当たりの悪い茶の間にこじんまりと暮らすなんてこともよくありました。昔はお祭りなどに人を呼ぶ習慣があって、年に数度のイベントのために座敷を最良の場所にすることが重要なことだったのでしょうけど、現在ではそのような「広くつくって狭く住む」家をリフォームして欲しいというご依頼が度々あります。

断捨離の考案者である、やましたひでこさんは定年後の住まいは家そのものがお荷物であると言っています。断捨離にはモノを減らして快適に住むために「不要・不適・不快」を捨て、「要・適・快」を招き入れるというメソッドがあります。それによると広すぎる家に住んでいる事での弊害は多くあると言います。広すぎるが故に手入れが行き届かなく、モノを捨てなくても済むと思いきみどんどん家の中にためこんでしまうため、モノの代謝が悪くなり家が荒れてくるといいます。子供が巣立った後の開かずの間にはモノが押し込まれゴミ置き場化していくとさえ、その観点からこれから求められる快適さとは無駄を削ぎ落として暮らす事への価値が浮かび上がります。個人的には収集癖があるコレクター気質なので断捨離できないものは絶対的にあると思っていますが、だからこそ捨てられないモノの物量だけは把握して上手に収納する収納計画は重要だと思っています。それは「狭くつくって広く住む」ことへの工夫につながります。他にも高さの低い家具を配置したり、窓のサイズと位置を外部につながるような工夫をするなど、高断熱化された住宅の限られたスペース(内部)を余すことなく広く使うことで、ネガティブな「狭い」は打ち消され、「狭くて居心地のいい家」の本質が見えてきます。

今回の内覧会の会場も決して大きな家ではありませんが、とても質感のある密度の濃い豊かな空間を持った住まいです。是非「狭くて居心地のいい家」を体感してみてください。